

【短報】 沖縄島でケナシツヤヒラタゴミムシを採集

ケナシツヤヒラタゴミムシ *Nipponosynuchus abnormalis* Morita, 1998 は鹿児島県奄美大島で採集された2個体により記載された種であるが、その後も追加報告が見られず少ない種のようなのである。筆者らは下記のように沖縄島において採集したので、新記録として報告しておく。また冬期の夜間に活動しているのを観察したので写真で紹介する。

1♀, 沖縄県国頭郡東村高江, 26. XII. 2012, 宮城秋乃 (採集・撮影)。

Morita (1998) によると、本種のタイプ標本は2雌で湯湾岳 (28. XII. 1982) と油井岳 (30. X. 1996) 産で、体長は14.3–14.4 mm。また森氏 (私信) によると湯湾岳の標本 (6–11. XI. 2001) が氏の手許に1個体ありこれも雌で、さらに大型で18 mmである。今回採集した個体は同じ雌であるが体長は14 mmと小さく、奄美大島産とやや異なる部分もある。原記載論文との照合、および森氏に依頼した氏の手許の標本との比較では、一応この種に同定できたが、沖縄島の個体が1個体にすぎず、いずれも♀である。種について今後の研究が期待される。

生態は殆ど不明であるが、今回の採集は12月下旬で、奄美大島の3個体も10月末から12月末であり、成虫は晩秋から冬期に活動するものと思われる。さらに今回の観察は夜間 (21時頃) に森林内の樹幹 (樹種不明) 1 m程の高さの所を歩行していたもので (図1), 気温の低い真冬の夜間に活動しているようである。

この採集地付近は、米軍輸送機オスプレイの着陸帯として工事が進められつつある地域である。工事と大型機発着により、沖縄島ではこの地域だけにしか記録のない本種の生息環境の破壊が心配される。

報告にあたり、同定と文献の紹介で森正人氏にお世話になった。また種名に関して堀繁久氏にご

指摘いただいたことを記して両氏に厚くお礼申し上げる。

引用文献

Morita, S., 1998. A new genus and species of platynine carabid beetle from Southwest Japan. *Elytra*, 26 (1): 75–79.

(宮城秋乃 900-0032 那覇市松山 2-2-13

日産商事ビル 1F MEB155)

(楠井善久 903-0805 那覇市首里鳥堀町 4-123-1

東苑荘 1-E)

【短報】 リュウキュウカワツブゴミムシ沖縄島における記録と真冬の活動について

リュウキュウカワツブ (アトキリ) ゴミムシ *Amphimenes ryukyuensis* Habu, 1964 は沖縄生物学会 (2002) によると奄美大島、徳之島、石垣島、西表島、尖閣諸島北小島から記録され、琉球列島に広く分布する種のようなのであるが、なぜか列島の中心に位置する沖縄島からの記録は知られていなかった。近年、初宿 (2012) により1973年にYonahaで採



図1. 立ち枯れの樹幹にいるリュウキュウカワツブゴミムシ。



図1. 夜間に樹皮上を歩くケナシツヤヒラタゴミムシ。



図2. 樹皮上で交尾するリュウキュウカワツブゴミムシ。

集された1例のあることが報告されたが、やはり沖縄島では少ない種ようである。

筆者らは沖縄島北部の東村高江で本種の2例目の生息地を確認したので、生態写真とともに生態の一片を報告しておく。

1♂2♀, 沖縄県国頭郡東村高江, 6. I. 2013 (撮影 19:23), 宮城採集・撮影; 1♂, 同地, 19. I. 2013 (撮影 00:33), 楠井採集・宮城撮影; 1♂2♀, 同地, 25. I. 2013 (撮影 01:24), 宮城採集・撮影; 1♂3♀, 同地, 30. I. 2013 (撮影 12:10), 宮城採集・撮影。

上記の記録からいずれも1月の低温期に出現している。直径20 cmほどのスダジイ(イタジイ) *Castanopsis sieboldii* (ブナ科) の立ち枯れの樹皮上、地上から1~1.5 mほどの高さの所に見られた(図1)。時間はいずれも夜間で、1月6日、1月25日、1月30日に観察した個体は交尾をしていた。2例の交尾は、樹皮の割れ目と窪みで行われていた(図2)。また、この観察した12月9日から2月2日までの日中に同じ地点で複数回の採集を行ったが、全く目撃できなかったことから、夜行性の種であることがうかがわれる。本種の生息する同じ地域には、真冬の夜間にのみ出現するケブカコフキコガネ *Tricholontha papagena* Nomura, 1952 が知られているが、同じような出現様式であるのかも知れない。また、八重山諸島などの他の生息地での生態に興味を持たれる。

この採集地付近は、米軍輸送機オスプレイの着陸帯として工事が進められつつある地域である。工事と大型機発着により、本種の生息環境の破壊が心配される。

末尾ながら、同定と文献の紹介で森正人氏にお世話になったことを記して厚くお礼申し上げる。

引用文献

沖縄生物学会, 2002. 琉球列島産昆虫目録 増補改訂版. 596 pp., 沖縄生物学会.
初宿成彦編, 2012. 大阪市立自然史博物館収蔵甲虫類目録(2). 372 pp., 大阪市立自然史博物館.

(宮城秋乃 900-0032 那覇市松山 2-2-13 日産商事ビル 1F MEB155)
(楠井善久 903-0805 那覇市首里鳥堀町 4-123-1 東苑荘 1-E)

【短報】東京都高尾山および伊豆大島からのエグリゴミムシの記録

エグリゴミムシ *Eustra japonica* Bates, 1892 は、オサムシ科ヒゲトオサムシ亜科のエグリゴミムシ族の一種である。本州、四国、九州の主に照葉樹林に生息し、とくに珍しい種ではない。筆者は、東京都の西部の低山地、および伊豆大島から得られた標本を検しているため、分布情報を追加する。

1ex., 八王子市高尾山(標高470 m), 18. VII. 2005, 亀澤採集。

本種の東京都からの記録は、文京区(中村, 1989), 大田区(新里, 1997), 千代田区の皇居(野村ら, 2000), 港区の赤坂御用地(野村・平野, 2005)が知られ、平野部に限られていた。

高尾山で採集された個体が飛翔中だったことや、皇居でも8月にマレーズトラップで採集されていることから、本種は少なくとも夏季に移動分散することがあると考えられる。

8exs., 大島町泉津福重, 2. X. 2012, 亀澤採集。

標本資料は、科研費(24510333; 研究代表者: 小島弘昭)の助成を受けて行わ

れた調査の際に、樹林内の倒木の樹皮下や内部より採集されたものである。本種は、伊豆大島および伊豆諸島初記録と思われる。



図1. エグリゴミムシ(伊豆大島産)。

引用文献

中村俊彦, 1989. エグリゴミムシの東京都内の記録, 甲虫ニュース, (87/88):7.
野村周平・平野幸彦・斉藤明子・上野俊一・渡辺泰明, 2000. 皇居の甲虫相, 国立科学博物館専報, (36):185-255.
野村周平・平野幸彦, 2005. 赤坂御用地ならびに常盤松御用邸の甲虫相. 国立科学博物館専報, (39):183-223.
新里達也, 1984. 大田区の甲虫. 大田区の昆虫, 大田区自然環境保全基礎調査報告書, 大田区, pp. 41-62.

(亀澤 洋 350-0825 川越市月吉町 32-17)